

「無」の生活

劉 瑛

以前も紹介しましたが、中国では、現金がなくてもアリババの「支付宝（アリペイ）」や WeChat 上での支払いで全く不自由はありません。先日、ある日本企業の駐在員と食事したら、「日本はオンライン決済が浸透しておらず、財布はいつも小銭でパンパン。不便だ。」と嘆いていました。現在、アリババグループは「アリペイ」を広く普及させ、キャッシュレス世界を作ろうとしています。

<支払の手間「無」の駐車場>

上海のある駐車場がアリババグループと協力し、車両ナンバーを「アリペイ」に登録すれば、出庫の際、自動的に「アリペイ」から駐車料が決済されるため、一時停止して小銭を探し、駐車料を払う手間がなくなりました。高速道路の ETC 同様時間も節約できます。全国すべての駐車場にこのシステムが広がるのを期待しています。

ちなみに ETC は、まだ事前に銀行での契約手続きが必要ですが、例えば「アリペイ」のシステム導入でその手間も不要となればさらに便利になるでしょう。

<店員「無」のスーパー>

また、7月8日にアリババが杭州（本社所在地）で店員のいないスーパーをオープンしました。QR コードをスキャンして入店し、選んだ商品をスキャンすれば支払いが終わり、ドアが自動的に開き外に出ることができます。店員は品物を補充するだけでよいので、1人の雇用で、複数の店を運営できます。人件費は大幅に減り、従来の4分の1程度と予測されています。一部の消費者にとっては、店員がいない文字通り機械的な対応は好まなかもしれませんが、「知らない人との会話が苦手な若い世代」にとっては、とても都合がいいと思われます。

また、アリババは、ネット販売においては、各市、各地域において消費者の嗜好、購買行動情報を収集、整理し、消費者の好みに合わせた商品を用意していますし、店舗では消費者が、どんな品物を手に取って見たか、実際どのような購買の傾向だったか等、消費者消費習慣も自動的に統計されていますので、店員がいなくても問題ないのかと思います。

アリババは中国の有名なジュース会社と協力契約を提携して、今後、全国で10万店舗を展開すると発表しています。

<その他「無」の生活>

検索ホームページ大手の「百度（バイドゥ）」は自動運転技術を開発していますが、今般、百度の会長が自ら自動運転の車に乗って北京の道を走っているビデオをネットワークに流したところ、交通違反であるとして警察が調査を始め話題となっていますが、「将来タクシー運転手がいらなくなるだろう」とも皆が噂をしています。

また、アリババが「天猫精霊」という「ロボット/スマートスピーカー（人型とは程遠く、コップみたいと言われている）」を試作しました。ロボット「Pepper」が人間らしく会話をするのと違いますが、会話でインターネット検索、各種支払い・振込み、テレビ等の操作などが可能です。家族全員の音声認識でき、音声で操作ができるため便利です。例えば、食事の出前注文も「〇〇を食べたい」といえば、すぐ候補リストが出されて、「〇〇にする」といえば、後は「天猫精霊」が注文し、届くのを待つだけです。今後、家電やインテリアのメーカー等が連携することによって、カーテン、ドア、エアコン、これ一つで家中のすべての操作ができますし、掃除ロボット、窓拭きロボットなどのシステムも連携することによって、お手伝いさんがいるように家の管理ができると予測されています。最近お手伝いさんが放火して奥さんと子供3人が死亡した事件があり、大騒ぎになったこともあり、「天猫精霊」がこれらの機能を十分に実現できれば、瞬時に全国に普及するものと思われます。

様々な人間の仕事が機械にとって代わられる世の中に、失業の不安を抱える人も少なくありません。